

事例

学校給食への地場産農産物供給を起点とした「食べて学んで体験する」食育活動（第5回食育活動表彰 農林水産大臣賞受賞）

JA東京むさし小平地区（東京都）

東京都小平市は、地場産農産物を使った「地場産学校給食」の取組を積極的に進めており、市内の全ての公立小・中学校への出荷調整を、JA東京むさし小平地区が担っています。学校給食における地場産農産物の使用割合30%という目標を掲げ、取組を行ってきた結果、平成18（2006）年度時点で、小学校5.5%、中学校6.0%だったものが、令和2（2020）年度にはそれぞれ、30.1%、32.8%となり、現在ではほぼ毎日、学校給食に地場産農産物を供給できるようになりました。

さらに、JA東京むさし小平地区は、学校給食の出荷調整だけでなく、生産者による出張授業や、「学童農園」による体験学習等、多角的に食育活動を実施しています。出張授業では、生産者が教壇に立ち、給食で使われる地場産農産物や、生産者の思いについて授業を行った後、児童と一緒に給食を食べます。また、「学童農園」は、市内の全ての公立小学校で実施しており、農家が畑を貸し、農業体験を児童に提供することにより、農業に対する理解の深化や、給食の食べ残しの減少へとつなげています。

地元住民の理解を得て、市内の農地を未来に残していくため、子供の頃から食べて、学んで、触れて、農業を体験してもらうための活動を、今後も続けていきます。



生産者による出張授業



「学童農園」の成果物の展示

第5章

生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等